

民國初期の世界語——北京世界語專門學校を中心

藤田一乗

はじめに

ドヴィコ・ザメンホフ（Ludoviko Lazaro Zamenhof）の眼科医ラザロ・エスペランタ（一八七九年——一九一七年）により作られた人工語である。ザメンホフが出版した「エスペラント博士（希望する者の意）の名で「国際語」を出版したことにより、エスペラントとその後呼ばれるようになった。一九〇五年にはフランクフルトで第一回万国エスペラント大会が開催された。第一、二世界大戦の期間を除き毎年開催されるまでになった。

（以下、北京世專と略す）である。北京世專は民國十二年十月に開校し、民國十四年の下半期に閉校した。寿命の短かった専門學校である。しかしこれに関わった人物は、様々な考えを持った当時第一級の知識人達であつた。以下、北京世專の開校から閉校まで、それに関わった人物、その授業内容等を考察していく。尚、以後エスペラントは中國語である世界語と書く。

一 北京世界語專門學校設立以前
世界語は中華民國建國当初からすでに學校教育に取り入れられていた。教育部は、民國元年十二月十日に「教育部公布師範學校規程令」を公布した。その第六、七条に、

第六條 視地方情形。得缺農業。或世界語代英語。

第七條 視地方情形。得加英語或世界語。

（第六條 地方の情勢に鑑み、農業を入れる。また世界語を英語に代替する。）

第七條 地方の情勢に鑑み、英語或いは世界語を加える）

とあり、建國直後の學校教育にすでに世界語が採用されていた。この時期の教育部總長は范源濂であつたが、前任は蔡元培（注2）であり、彼の意向が強く反映したのではないかと思われる。この後に見ていくが、蔡元培は世界語普及に尽力した最大の人物の一人であり、また当時、教育部内で蔡元培以外、世界語に精通した人物は考えにくいのである。あろう。建國当初に世界語を自由に操り、それを教えることのできる人間は皆無であつたに違いない。實際に世界語が本格的に教育現場に持ち込まれたのは、民國六年十一月に北京大學で世界語班が設立されたのが最初であらう（注3）。これはあまり注目されなかつたらしく（注4）、世界語が本格的に流行し始めたのは、これから數年後である。そしてその流行と共に北京で世界語の團體が幾つか設立される。

①北京世界語學會

民國十一年四月成立した學會で、會長は周作人。「北京世界語學會宣言」（注5）を表明し、世界語の普及を提唱している。と同時に世界語暑期講習班を設立し、生徒を募集した。その教授には、エロシエンコ、ソフオクロフ（Sofokrot）等が担当した（注6）。その後、民國十一年十二月四日に會議を開き、人事の改訂を行った。幹事を陳廷璠、エロシ

エンコを書記、講習班の設立に関するものを、耿勉之、馮省三が担当することになった（注7）。

②世界語研究會

この研究會は民國八年十月に北京大學世界語班の研究機關として設立された（注8）。この會の會長等は、今の所わかっていない。

民國八年には國立北京大學世界語特班を設立し、世界語の普及に努めた（注9）。

民國十三年四月一七日には北京世界語研究會附設世界語講習班を設立し（注10）、また同年四月二十三日には日本のエスペランチストの小坂狷二を招き、小坂は「世界語の効用と中國」の題名で講演を行っていた（注11）。

③世界語聯合會

この世界語聯合會が北京世專の設立を提唱し、實行した団体である。

世界語聯合會は、民國十一年十一月二十五日に世界語聯合會籌備委員會を北京大學第三院の大禮堂で、延年、胡鄂公夫人、耿勗、孫國璋、華圭、華南圭夫人、エロシエンコ、周同煌、陳廷璠、蔡元培を委員として開催した（注12）。

十二月九日には、第二回準備會議を開催し、出席委員は、孫國璋、エロシエンコ、胡鄂公夫人、華南圭夫人、陳廷璠、周同煌、耿勗で、周作人、孫國璋、エロシエンコを編集担当に、主席に蔡元培を選出した（注13）。

その後、同年十二月十五日に三度、大會を開催した。参加者は『晨報』民國十一年十二月一日「昨日之世界語聯合大會」によると二千人もなり、出席會員は、王桂森、王魯彦、宗之潢、耿勉之、陳廷璠、陳裕光、

陳聲樹、馬金濤、孫國璋、蔡元培、程振基、廖鴻基、蘇甲榮、榮肇、胡鄂公夫人、周作人で、大會執行委員に、蔡元培、孫國璋、王桂森、陳廷璠、周作人の五人を選出し、議案を九つ通過させた。その中の第八条で、世界語専門学校の設立を求めている（注14）。この第八条が具体化したのが、北京世專であつた。その設立の具体的な一歩が『晨報』民國十二年三月二十六日「籌備聲中之専門學校」に見られる。

世界語聯合會開第一次會議的時候，通過設立北京世界語専門學校一案，當即組織北京世界語専門學校籌備委員會，分途進行，務期早日實現。該會昨日又在北京大學第一院籌備就緒，暑假中即開始第三次會議，討論籌辦事宜，並決定於三月內籌備就緒，暑假中即開始招生。

（世界語聯合會）が初めて會議を開いた時、北京世界語専門學校設立の議案を通し、直ちに北京世界語専門學校籌備委員會を組織し、そのれぞれ事を進め、早期實現に努めた。當該委員會は昨日、北京大學第一院世界語研究室で第三回の會議を開き、準備の件を討論し、三ヶ月以内に準備を整え、夏期休暇に學生の募集を開始すると決定した。

とあり、夏には學生を募集することを決定しており、實際にその通りになつた。

また同日の『北京大學日刊』に「北京世界語専門學校簡章」がすでに載せられおり、この時すでにかなり具体的な計画が進んでいたことがわかる。この簡章は、校名、組織構成、理事の選定、校費等を定めたものが十七条から成っており、末尾に世界語聯合會委員の蔡元培、孫國璋、胡鄂公夫人、王桂森、陳聲樹、陳延璠の名が挙げられている。

また上記以外の發起人として、馮省三がいる。『回憶魯迅』「魯迅與世界語」(荊有麟、上海雜誌公司、中華民國三十八年三月、二版、『魯迅卷』十三編、中國現代文學社編所収)には、

民國十二年、北平世界語專門學校成立。學校教務處的陳空三與馮省三，去面請先生來教課

(民國十二年、北平世界語專門學校が設立した。學校の教務處の陳空三と馮省三が、先生に文學史、文學理論を教えてくれるよう頼みにきた)

とあり、又『魯迅年譜』第二卷(李何林主編、人民文學出版社、一九八三年四月)一九二三年六月七日の項目には、

當時與該校主要發起人陳空三、陳聲樹、馮省三來往密接。

(當時、該校の主要發起人の陳空三、陳聲樹、馮省三と往来が密接であつた)

とある。

そして民國十二年六月七日到北京世專主催の遊藝會(注15)を開き、その門出を祝っている。

二 北京世界語專門學校の初年度學生募集と授業内容
初年度學生募集の詳細

それでは北京世專の授業は如何なるものだったのか。先ほどの「北京世界語專門學校簡章」には學校の運営組織は掲載されてはいるが、授業内容等の詳細は無い。しかし『北京大學日刊』民國十二年七月二十一日「來件」の「北京世界語專門學校招生簡章」に詳細があり、第一条にこの北京世界語專門學校招生簡章は十一條から成っており、第一条に

は、

一、本校分兩部

1 専門部
2 師範部

とあり、専門部と師範部の二部から構成されている。

続けてそれぞれの学習期間と学習内容が、第二、三条で示されている。

二、専門部三年畢業。課程如下..

一年級..

必修科

世界語 國文 外國文(英, 法, 德, 俄.. 任選一種)

選修科

論理學大意 科學概論 文學概論 哲學概論

二年級..

必修科

世界語 國文 外國文(全上)

選修科

心理學 社會學 文學史 倫理學 生物學

三年級..

必修科

世界語 外國文(全上)

選修科

教育學 教育史 社會主義史

三、師範部一年半畢業。課程如下..

必修科

世界語 國文 外國文(英, 法, 德, 俄.. 任選兩種) 教育學

教育史 Ⅱ 選修科 Ⅱ
 文學史 科學概論 心理學 社會學 論理學 哲學概論 倫理
 學
 それぞれ専門部は三年、師範部は一年半で卒業である。
 専門部は、一年生は世界語、國文、外國語が必修科目、論理學、科學
 概論、文學概論、哲學概論が選択科目である。二年生は必修科目は同様
 で、心理學、社會學、文學史、倫理學、生物學が選択科目である。三年
 生は世界語、外國語が必修科目、教育學、教育史、社會主義史が選択科
 目である。
 師範部は、世界語、國文、外國語、教育學、教育史が必修科目、文學
 史、科學概論、心理學、社會學、論理學、哲學概論、倫理學が選択科目
 である。
 この授業内容を見ると、北京世專は世界語だけを教える専門學校とい
 うより、寧ろ大學に近い。世界語だけを話す人材を育成するのではなく、
 幅広い知識を持った人材を育成することを目指している。
 第四、五条では応募資格とその人数が示されており、
 四、資格…
 中學畢業，及有同等學力者。
 五、招考額數…
 專門部—一百名
 師範部—八十名
 応募資格は、中學卒業か同程度の學力を持つ者。募集人数は、専門部
 が百名、師範部が八十名である。

第六條は応募手續、第七、八條は試験科目とその期間がある。

七、試験科目…

外國文…作文，翻譯，文法；

國文…作文，解釋，文義，句讀標點；

數學…算術，代數，幾何；

理化；

中外地理；

中外歷史；

口試

八、報名地址及時間…

地址—東華門内北河沿孔德學校

時間—第一次報名自七月二十日起至三十一日止，八月一日在上

開地址開始試驗。

第二次報名自八月五日起至八月十五日止，十六日在上開

地址開始試驗。

とあり、試験内容はかなり範囲も廣く、相當な知識が要求されている。

かなり高度な人材を求めていたようである。またその募集期間及び試験

は、七月二十日から三十一日まで、試験日は八月一日。第二次登録期間

は、八月五日から八月十五日まで、試験日は八月十六日とある。

期満その他はその項目だけ書くと、九、入學手續、十、學費、十一、修業

作人、魯迅、最後、エロシエンコ、景定成、張季鸞、傅銅、吳稚暉、李石曾、周

聲樹、陳延播、胡鄂夫人の十四人で、校長が蔡元培、事務長が周作人で

陳延播、胡鄂夫人の十四人で、校長が蔡元培、事務長が周作人で

あった。同様の募集廣告が、『晨報』民國十二年七月十九日「北京世界語專門學校招考男女廣告」(注16)と七月三十日「北京世界語專門學校招考男女廣告」(注17)である。16
 日、七月十九日の廣告では、第一次の募集期間は、七月十九日から三十一日、七月三十日の廣告では、七月十九日から八月二日とある。当初の予定より都合二日募集期間が延長されている。また日を置いて民國十二年八月九日『晨報』に再び「北京世界語專門學校招生」(注18)が掲載される。そこには、登録期間は八月八日から二十五日、試験日が八月二十六日とある。つまり初年度の北京世界の學生募集は三回行われた。初年度の募集では一体何人の學生が入學したのか。募集人數は「北京世界語專門學校招生簡章」によると、專門部、師範部、合せて百八十名であるが、『晨報』民國十二年七月十九日「北京世界の語専門學校招考男女廣告」では百五十人を募集しており、三十人の違いがある。入學した學生は、『晨報』民國十二年八月七日「世界語專科近況」では、男子學生八十六名、女子學生七名、計九十三名が合格したとある。しかしこの人數には第二、三次の募集し、それに合格した人數は当然含まれていない。『晨報』民國十二年九月三日「世界語專門學校」最終的な入學人數は、『晨報』民國十二年九月三日「世界語專門學校」で、合格者を「百八十餘」とあるので、第二、三回目の合格者は合わせて八十七名ということになる、当初の予定人數が入學したことになる。

三 北京世界語専門學校の教授陣

この百八十名の學生を教える教授陣はどの様な面々だったのか。まず校長であるが、先ほど触れたように校長は蔡元培ではあったが、これは名目上のことであった。なぜなら蔡元培は民國十二年一月には北大學の學長の職を辭しており、同年七月にはヨーロッパに向けて出發してゐる為、實質的に校長は不在であつた。しかしこれではやはり都合であつたらしく、代理校長を置いた。『晨報』民國十二年八月七日「世界語專校近況」には、

校長一職、因蔡元培出洋、暫推譚熙鴻教授代理。
（校長の職は、蔡元培がヨーロッパに出發した為、暫時譚熙鴻教授を代理とする）

とあり、譚熙鴻が代理に収まつた。その後、民國十三年四月には吳稚暉が正式な校長に就任し、十二月にはソフオクリフが名誉校長に就任してゐる（注¹⁹）。

これ以外の實際に授業を行う教授は、『晨報』民國十二年九月三日「世界語専門學校」によれば、徐旭生が哲學總論、魯迅が小説史大綱、吳稚暉が發音學及び定期講演、ルート女士（Miss Roots）が英語、羅柄が數學、王星拱が科學總論、張競生が論理學大意、ソフオクリフが世界語、そしてエロシエンコは明年春中國に來る予定とあり、『晨報』民國十二年九月十九日「世界語専門學校」では、馬叙倫の名も挙がつてゐる。

さらに翌年の『晨報』民國十三年七月六日「世界語專校之進行愛羅先珂又將來華」には、
本屆滬上招考事宜，由校長吳稚暉及鄧夢仙，胡愈之，鄭佩剛等組織

招考委員會、報名處在上海望平街民國日報社、北京則由教務長景梅
 九辦一切、聞報名者均甚踴躍云。該校定於暑假期內、將校務整理
 完備。新聘請之世界語教員俄人熱谷爾、德人安斯坦及女友石來赫馬
 哈爾之孫女、不久均可到校。愛羅先珂原定十月來華
 （今回上海での試験は、校長の吳稚暉と鄧夢仙、胡愈之、鄭佩剛等
 が招考委員會を組織し、登録は上海望平街の民國日報社で行う。北
 京では教務長の景梅九が一切を処理し、登録者は皆喜び勇んでいる
 と聞く。該校は夏期休暇中に校務を整理完備する。新たに招聘する
 教員として、該校は夏期休暇中に校務を整理完備する。新たに招聘する
 石來赫馬哈爾の孫娘が間もなく學校に到着する。エロシエンコは十
 月に来華である）
 とある。上海には、吳稚暉（校長）、鄧夢仙、胡愈之、鄭佩剛。北京は、
 景梅九（事務長）、熱谷爾（ロシア人）、安斯坦（ドイツ人）、石來赫
 馬哈爾の孫娘（ドイツ人）、とエロシエンコの名が上がっている。景梅
 九に交代している。事務長が北京世專成立当初は周作人であったが、景梅
 最後には後何処にも見られない。理由は定かでは無いが、この頃周作人
 は魯迅と袂を分かっており、北京世專に熱心であった魯迅との関係上、
 或いは北京世專から手を引いたのかもしれない。
 演をこれ以外の人物で、北京世專と関係があつた人物としては、二名が講
 の題で行っている。民國十三年四月二十三日には小坂狷二が「大同の企図」
 でそれが、同年五月五日には李春濤が『世界語と世界革命運動』の題名
 が北京世專の初年度の募集と教授の詳細である。

以上に見てきたように様々な人物が北京世專の理事や教授として関係しているが、その多くは北京大學に關係している人物である。具体的

以下に略歴を述べる。

延年 公 詳細不明。

胡鄂公 夫 詳細不明。ただ夫が教育部次長なので、体制側を取り込

胡鄂公 公 一八八四—一九五一 湖北省江陵の人。民國十年共產黨入

耿勗 黨 民國十一年十二月、北京政府教育部次長。

孫國璋 一八八六—一九六五 江蘇省無錫の人。民國四年上海世界

華南語學社設立。民國六年、北京大學世界語教師。

華留學 一八七六—一九六一 江蘇省無錫の人。光緒三十年、パリ

エロシエンコ (Ecoshenko, Vasily Yakovlevich 一八八九—一九

生 二 一八九四年失明。一九一二年イギリスの盲學校入學。一九一四

周 年 來 日 一八九二年中國に渡る。

陳廷璠 一八九七—一九四九 陝西省戸縣の人。字を空三、崑山。

蔡元培 一八八八—一九四〇 浙江省紹興の人。民國六年、北京大

周 學 校 長 就 任 一八八五—一九六七 浙江省紹興の人。光緒三十二年日本

王留學。民國六年、北京大學教授。民國六年十二月十五日「紀
 事本校教職員世界語班第二次通告」に、王桂森の名がある。民國七年十一月十二日「教
 職員世界語班第二次通告」に、王桂森の名がある。民國十二年北京大
 王魯彦（一九〇二—一九四四）浙江省鎮海の人。民國十二年北京大
 學のエロシェンコの助手になる。浙江省鎮海の人。民國十二年北京大
 宗勉之漢。詳細不明。浙江省鎮海の人。民國十二年北京大
 耿裕光（一九三—一九八九）浙江省江鄞の人。民國五年アメリカ
 陳留學。民國十一年歸國後、北京師範大學教授。民國五年アメリカ
 陳聲樹（？—一九六八）陝西省漢陽の人。北京大學で世界語を学ぶ。
 馬金濤（詳細不明）。安徽省婺源の人。民國元年イギリス
 程振基（一九一—一九四〇）安徽省婺源の人。民國元年イギリス
 留學。民國七年歸國後、北京大學經濟系教授。民國元年イギリス
 廖鴻基（詳細不明）。民國七年歸國後、北京大學經濟系教授。民國元年イギリス
 蘇甲榮（一九五—一九四五）江西省藤縣の人。民國三年北京大學
 予科入學。民國九年、北京大學助教教授就任。民國三年北京大學
 榮肇（詳細不明）。民國九年、北京大學助教教授就任。民國三年北京大學
 省三（一九〇二—一九二四）山東省平原の人。北京大學預科法文
 馮學班（一九〇二—一九二四）山東省平原の人。北京大學預科法文
 學。民國十一年、學校の講義プリント代金徴収に反対して、退
 吳稚暉（一八六五—一九五三）江蘇省武進の人。光緒二十七年日本
 留學。光緒二十九年イギリス、その後パリに住む。光緒三十三年に
 李石曾と世界語雜誌『新世紀』を創刊。光緒三十三年に

李石曾（一八八一—一九七三）河北省高陽の人。光緒二十八年パリに渡り、吳稚暉とともに世界語雑誌『新世紀』を創刊。民國六年、北京大學教授。

魯迅（一八八一—一九三六）浙江省紹興の人。光緒二十八年日本留學。民國元年、教育部職員、北京大學、北京女子師範大學等で教鞭をとる。

景定成（一八八二—一九五九）山西省安邑の人。別名梅九。光緒二十九年來日。光緒三十三年幸秋水と交際が始める。宣統元年來日。張季鸞（一八八八—一九四二）陝西省榆林の人。宣統元年來日。宣統三年歸國。民國元年『民立報』、民國五年『中華新報』創刊。傅銅（一八八六—？）河南省蘭封の人。イギリス、日本に留學。歸國後、北京師範大學教授。

姚懋（一八七五—一九二四）安徽省桐城の人。早稻田大學に留學。北京大學法學部教授。

譚熙鴻（一八九一—？）江蘇省吳縣の人。字は仲達。アメリカ留學。歸國後、北京大學生物學教授。

徐旭生（一八八八—一九七六）名は炳昶、字を旭生。河南省唐河の人。民國十四年、北京大學哲學系教授。

ル・ト（Miss Roots）詳細不明。ただ、民國十二年九月一日『晨报』「世界語專門學校」已開始上課に「密斯儒特」とあり、同一人物の可能性が有る。

羅柄（詳細不明）字は撫五、安徽省懷寧の人。北京大學化學教授。

王星拱（一八八九—一九〇五）字は撫五、安徽省懷寧の人。北京大

張競生（一八八八—一九七〇）廣東省饒平の人。民國元年フランス
留學。帰國後、北京大學哲學教授。詳細不明。ただ、民國十一年五月二十三
ソフオクリフ（Sotokri）詳細不明。たまた、民國十一年五月二十三
日に北京世界語學會で、魯迅、周作人等と撮った写真がある。民國六
馬叙倫（一八八四—一九七〇）字は夷初、浙江省杭縣の人。民國六
年、北京大學哲學系教授。民國十一年、教育部次長。上海の
鄧夢仙（？—？）千葉医科大学（？）卒業。北京世專校医。上海の
胡愈之（一八九六—一九八六）浙江省上虞の人。民國九年、巴金等
と上海世界語學會を設立。
鄭佩剛 詳細不明。
熱谷爾 詳細不明。
安斯坦 詳細不明。
石來赫馬哈爾の孫娘。詳細不明。
小坂狷二（一八八八—一九六九）東京生まれ。一九〇六年に世界語
を學習し始める。一九二四年、中國に出張し、講演を行う。日本エ
スペラント學會の創立者。
李春濤（一八九七—一九二七）廣東省潮州の人。民國六年、日本留
學。私立中國大學、私立平民大學、國立高等女子師範學校講師。

四年北京世界語專門學校の第二、三年度の募集
翌年には第二年度の募集が行われる。初年度の募集と大きく異なる点
では、先ほど触れたように試験箇所が北京と上海の二カ所で行われたこと
であった。

『晨報』民國十三年六月十八日「世專校之進行」には、該校本期入學試驗、擬在京滬二地舉行、在京者由該校教職員組之考試差員會辦理、在滬者由該校代長吳稚暉及職員鄧夢仙等辦理。北京は該校の本期入學試験は、北京と上海の二カ所で行う計画である、と職員は該校の教員組織の試験官が処理し、上海は校長代理の吳稚暉とある。

等では、第二年度の募集は何時行われたのか。学生の募集は、『晨報』①『晨報』民國十三年六月十八日「北京世界語專門學校招男女生」（注

2 1

第一次登録期間 六月二十五日から七月十日。

試験日 七月十五日。

第二次登録期間 七月二十五日から八月十日。

試験日 八月十五日。『晨報』民國十三年七月十二日「北京世界語專門學校招男女生」（注

2 2

第一次登録期間 六月二十五日から七月十七日。

試験日 七月二十八日。

第二次登録期間 七月二十五日から八月十日。

試験日 八月十五日。『晨報』民國十三年八月一日「北京世界語專門學校招男女生通告」

③（注

2 3）『晨報』民國十三年八月十日まで。

① 次に第三、次募集は何時、どのようない内容で行われたのか。男女生（注

登録期間 記載なし

試験日 七月十八日
試験日 七月二十日

(18)

募集内容
試験日程
登録期間
試験の
前日まで
八月二十六日
専門部
新生六十名
編級生十名

③『晨報』民國十四年八月二十六日「北京世界語專門學校招考展期」

募集内容	試験日程	登録期間
専門部 新入生六十名	九月六日	試験の前日まで
編級生十名		

④『晨報』民國十四年九月九日「北京私立三專門學校招男女生廣告」
 (注32) ①③は專門部と中學部、②は專門部、中學部と小學部で募集をしてい
 る。当初北京世專は專門部と師範部の二つの部門があったが、師範部は
 無くなり、代わりに中學部と小學部が加わっている。④は京華美專、外
 國語專、世界語專三校で廣告を出しているが、登録期間、試験日、募集
 内容は全くない。また新たな教員の補充も見あたらない。
 このようないくつかの組織の拡張は民國十三年の下半期から見られ
 る。『晨報』民國十三年八月二十日「世界語專校之進行」
 組織函授學社「民國十三年八月二十日」世界語專校之進行
 民國十四年三月二十七日「世界語專附設平校」四月一日開課
 に六歳から十二歳までの子供を募集し、平民學校を創設しようとしてい
 た。また『晨報』民國十四年九月九日「北京世界語專門學校附設中學續招
 男女新生」には、英語を第一外國語、世界語を第二外國語とした初級中
 學を創設を目指した。
 こうなると北京世專はもはや世界語を教える專門學校と言えず、小學
 部、中學部、專門部から成る、一貫校になる。
 ところがこれだけ組織を作り上げたにも関わらず、『晨報』民國十四
 年九月二十二日「北京私立三專門學校招男女生廣告」を最後に北京世專
 關係の廣告は見られなくなり、實際にこの一貫校が運営されたのかは、
 不明である。
 上述したことから、北京世專は第三次募集から明らかに変質している。

第一、二次の時期は世界語を中心に教える専門學校であつたが、三次募
集になるとその枠を超え、一貫校を設立しようとしてゐる。しかしこの
計画は實現しなかつたのではないか。或いは北京世專内でのこのよう
な三月十一日に同じくして辭職した可能性もある。

五 北京世界語専門學校の閉校の原因は數人が言及してゐる。以下に引用すると、
①『民鐘』第七期、一九二四年三月十日（『五四時期社團（四）』張

北京世界語専門學校の閉校の原因は數人が言及してゐる。以下に引用すると、
候等、生活・讀書・新知三聯書店、一九二九年四月一日所収）
北京世界語専門學校の閉校の原因は數人が言及してゐる。以下に引用すると、
便利起見、特組織一個北京世界語學校A G。故欲以後爲主義進行上の
組織各地方的小團體進而大聯絡；即在中國内，由各縣中組織A G，合
各縣的A G而成一省的A G，合各省的A G而成全國的。現北京世專
校同志已組織成立（宣言書略），聞各地方也相繼組織，將來如果這種
組織成功，則我的主義在中國進行上，必較前快捷萬倍矣。
（北京世界語専門學校の諸同志はこの失敗に鑑み、以後主義進行上
の便宜の爲に、特に北京世界語専門學校A G（アナーキストグループ
の大聯合させることである。即ち中國國內で、各県にA Gを組織し、
各県のA Gを合わせ、一省のA Gにし、各省のA Gを全國のA Gに
する。現在北京世專校の同志は已にこの組織成立させ（宣言書省略）、各
地方も相繼いで組織し、将来もしこの組織が成功したならば、我が

主義は中國の進行上、必ずや以前より瞬く間に前進するだろう)

② 『中國世界語出版者與世界語運動』「張鳴與世界語」(藍天強主編、

北京世界語專門學校、二〇〇二年八月。)

北京世界語專門學校、于一九二五年上半年的閉校、却與張鳴有着極大的關係。張鳴入學後、就與世界語的積極提唱導者、無政府主義者景梅九關係密切。景氏時任副校長、權力較大。該校學生激進、引起了負責教務的陳崑山的「不滿」他認為學生要專心學業、不要空談主義、加上他性格倔強、終於激成了學生的罷課。學生們推出二十一名代表、張鳴為其中之一。(略)結果在僅有三百多學生中、竟有約二百人退校、使學校元氣大傷、校長蔡元培和教師負責人馬叙倫也引咎自責。北京世界語專門學校是一九二五年上半期的閉校は、張鳴と大いに關係がある。張鳴は入學後、世界語の積極的な提唱者であり無政府主義者の景梅九と關係が密接であった。景氏は副校長になった頃、權力は大であった。該校の學生は過激となり、教務責任者の陳崑山の「不滿を引き起した」。彼は學生は學業に専心し、主義を空談するべきではないと考へており、加えて彼の性格の偏屈さもあり、遂に學生のストライキを激發した。學生達は二十一名の代表を選び、張鳴はその中の一人であった。(略)その結果三百人の學生中、二百人が退學し、學校の活力は失われ、校長の蔡元培と教授の責任者馬叙倫が引責辭任した。

③ 『回憶魯迅』

先生當時担任北京世界語專門學校講師，這學校裏的學生，完全攏罩在政治活動中，記得當時學生中分三派，國民黨，共產黨與無政府黨。因爲有這些黨派關係，在第二學年，便暴發了不可收拾的學潮，整整鬧了半年，學校還是無法上課。於是有些人，便找代理校長譚熙鴻，預備另外成立一外國語專門學校，以結束其風潮。當時曾邀請與學校有關之董事，教授等，在中央公園開會商決。先生爲教授之一，自亦參與其會，會議中，多數以爲爲解決風潮起見，還是另改學校名稱，學生從新舉行登記。此主張，以馬夷初主張最力，後來李石曾提出.. 以此，有失教育青年之旨，學生中，凡係某黨某黨，一律不予接收，先生へ先生が當時北京世界語專門學校講師をしていた時、この學校の學生は完全に政治家活動にのめり込み、當時學生は、國民黨、共產黨、無政府黨の三派であつたと記憶している。これらの党派の關係により、第二學年の時、收拾のつかない學生運動が巻き起こり、まるまる半年續き、學校は授業が出来なくなつた。そこである人が、代理校長の譚熙鴻を訪ね、別に外國語專門學校を設立し、この風潮を収束させようとした。當時學校と關係のあつた理事、教授等を招聘し、中央公園で會を開き談合した。先生は教授の一人で、自らその會に参加した。會議で、多數がこの風潮を解決する為には、やはり學校の名称を改め、學生は新たに登録を行うと考へていた。この主張は、馬夷初の主張が最も強力で、後に李石曾がこう提出した..再びこの風潮を防止する為に、學生で党に關係する者は、一律に接收を許さず、と。先生はこれを青年を教育するという趣旨を失うとし、激烈に反対した。

スト これらを総合してみると、民國十三年の初め、北京世專内にアナキ
 呈断していた。その内に陳昆山に対する不満が爆発し、半年に渡り授業が
 中張するが、魯迅が強硬に反対した、となる。別の學校の設立を
 主し、張鳴與世界語で景梅九が副校長とあるが、景梅九が副校長
 になつた事實は今の所見出せていない。景梅九が事務長になつたことを
 指すのであろう。また教務責任者が陳崑山とある、陳崑山が教務責任者
 になつた事實もまた未だ見出せていない。或いは、陳聲樹の間違いか。
 「山鹿泰治と中國」『たそがれ日記』に見る日中アナキストの交流に
 「ここに示す写真は山鹿のアルバムにある世專校長陳聲樹のもの」とあ
 る。しかし陳聲樹も校長にも教務責任者にもなつた事實は未だ見出せて
 いない。『回憶魯迅』では、一校長の蔡元培と教授の責任者馬叙倫が引
 責辭任したとあるが、荆有麟が第二學年の時と有るので、北京世專二
 年目の民國十三年当時、蔡元培が校長であつたはずはない。これは全く
 の事實誤認である。また一代理校長の譚熙鴻を訪ねた」とある。譚熙鴻
 が代理校長になつたのは民國十二年八月であることはわかつているが、
 明確な辭任時期はわからない。しかし一收拾のつかない學生運動が巻き
 起こり、まるまる半年續き」とあるが、魯迅は民國十四年三月に辭表を
 提出するまで、ほぼ毎週北京世專で講義を行つてゐる。まるまる半年授
 業が行われなかつたとすれば、魯迅が辭表を提出した後の半年でないとい
 業が行われなかつたとすれば、魯迅が辭表を提出した後の半年でないとい
 辻褄が合わない。つまり北京世專二年目の民國十三年四月には吳稚暉が新校
 余りの時期ではないか。もしそうなら民國十三年四月には吳稚暉が新校

長に就任しており、これまた事實と合致しない。また馬叙倫が辭任した事實は今の所確認が取れていない。

結局、北京世專の開校は、政治運動が一つの原因ではあつたであろう。その結果として、あれ程世界語の普及に熱心であつた魯迅が北京世專の教授を辭任している。

ささらにもう一つ開校の原因となつたのは、資金不足が考えられる。北京世專運営にどのくらい資金が必要であつたかは、定かではない。しかし慢性的な資金不足の状況は、『魯迅日記』で明らかである。これによると魯迅の月給は以下のようになる。

民國十二年十月十日	九月分 十元
民國十三年二月四日	昨年十二月分 十五元
三月七日	一月前半と二月後半分 十五元
十二月二十九日	九月と十一月 各十五元

約一年半の給料の合計七十元、給料の無い月の方が圧倒的に多い。設立当初から教授の給料不足の上に、學生運動、その結果二百人近くが退學した。いる。この資金不足のなるのは、當然である。

なると、運営が厳しくなるのか、魯迅が辭職した後、北京世專は平民學校、それを穴埋めしようとしたのか、魯迅が大量に募集し、資金不足に當てようとしたのである。これは馬夷初、李石曾が目指した新たな北京世專である。

(25)

- 1 北京世專以外に世界語を教える學校としては、北京集成國際語言學校がある。『魯迅日記十三』民國十三年五月八、十五、二十一、二十九日、六月五、十二、二十六日に見られるが、詳細は不明。
- 2 教育総長は、蔡元培は民國元年三月三十日就任、七月十四日辭職。范源濂は七月二十六日就任、民國二年一月二十八日辭職。
- 3 『北京大學日刊』民國六年十一月三十日「北京大學世界語班開課講辭」に詳しい。
- 4 周作人『知堂回想錄』「一三八 愛羅先珂上」（周作人、河北教育出版社、二〇〇二年）に「元々北大には世界語があり、教師は孫國璋で、人は注意しておらず、ただ、随意科の第三外國語に過ぎなかった」とある。
- 5 『晨報』民國十一年四月二十二、二十三、二十五日、『北京大學日刊』民國十一年四月十八日。
- 6 『晨報』民國十一年六月九日「北京世界語學會竭力擴充」、七月四日「世界語學會之暑期講習班」、七月七、八、九、十日「世界語暑期講習班招生廣告」。
- 7 『晨報』民國十一年十二月五日「北京世界語學會昨日會開」。
- 8 『北京大學日刊』民國八年十月二十一日「國立北京大學世界語研究會簡章」。
- 9 『北京大學日刊』民國八年十一月四、五日。
- 10 『北京大學日刊』民國十三年四月十七日。
- 11 『北京大學日刊』民國十三年四月二十二日「世界語研究會布告」、四月二十六日「講演錄日本小坂狷二先生講演『世界語的効用與中國』」。

- 12 『北京大學日刊』民國十一年十一月二十八日「世界語聯合會籌備委員會會議紀事」、「申報」民國十一年十二月一日「北大世界語聯合會紀盛」。
- 13 『北京大學日刊』民國十一年十二月十一日「世界語聯合會籌備委員會會議紀事」、「晨報」民國十一年十二月十一日「世界語聯合大會」。
- 14 『晨報』民國十一年十二月十五日「今天的世界語聯合大會」、十二月一六日「昨日之世界語聯合大會」、「北京大學日刊」民國十一年十二月二十二日「世界語聯合大會開會紀事」。
- 15 『北京大學日刊』民國十二年六月五、六、七日「北京世界語專門學校籌款遊藝會啓事」、十二、十四日「北京世界語專門學校遊藝會啓事」、「晨報」民國十二年六月五、六、七日「北京世界語專門學校遊藝會啓事」、六月六日「世界語專校之遊藝會」、六月九日「世界語專校遊藝大會誌盛」。
- 16 『晨報』民國十二年七月二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五日にも同様の廣告が有る。
- 17 『晨報』民國十二年七月三十一、八月一、二日にも同様の廣告が有る。
- 18 『晨報』民國十二年八月十、十一、十二、十三、十四、十五日にも同様の廣告が有る。
- 19 『晨報』民國十三年十二月二十三日「世界語專之進行」。
- 20 小坂狷二の講演は『晨報』民國十三年四月二十二日「世界語專校講演」、李春濤の講演は、『晨報』民國十三年五月四日「世界語專校講演」。
- 21 『晨報』民國十三年六月十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

- 十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十日、七月一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一日にも同様の廣告が有る。
- 22 『晨报』民國十三年七月十三、十四、十五、十六、十七日にも同様の廣告が有る。
- 23 『晨报』民國十三年八月二、三、四、五、六、七、八、九、十日にも同様の廣告が有る。
- 24 『北京大學日刊』民國十三年八月九日にも同様の廣告が有る。
- 25 『晨报』民國十三年八月十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七日にも同様の廣告が有る。
- 26 『晨报』民國十三年八月二十九、三十、三十一日にも同様の廣告が有る。
- 27 『晨报』民國十三年九月十一、十二、十三、十五日にも同様の廣告が有る。
- 28 シェリシェフ（？―？）『宮崎滔天全集第三卷 出鱈目日記三月』に「彼はエスペラントの達人にして、亦その宣伝の熱心家也」とある。『回憶魯迅』「有趣的會談」では、民國十三年冬に陳空三、魯迅、荊有麟と會談したとあり、『魯迅日記』民國十三年十二月二十八日にも言及している。またシェリシェフの表記は『晨报』民國十三年十一月二十九日「世界語專公開演講」では「瀨和瀨夫」、民國十月十四日「世界語創作誕生日專」明日開會記念」では「西利西夫」、『回憶魯迅』では「謝利謝夫」、『魯迅日記』では「綏理綏夫」とある。
- 29 『晨报』民國十四年七月九、十、十一、十二、十三、十四、十五、

十六日にも同様の廣告が有る。

3 0 『晨報』民國十四年八月七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、

十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、

二十四、二十五日にも同様の廣告が有る。

3 1 『晨報』民國十四年八月二十七、二十八、二十九、三十、三十一日、

九月一、二、三、四、五日にも同様の廣告が有る。

3 2 『晨報』民國十四年九月十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、

十七、十八、十九、二十、二十一、二十二日にも同様の廣告が有る。

3 3 北京世界語專門學校は、手狭を理由に東華門内北河沿孔德學校から

西城錦什坊街孟端胡同に変わっている。

『晨報』民國十二年八月七日「世界語專校近況」。

参考文献

『魯迅全集』人民文學出版社、二〇〇五年十一月。

『魯迅全集』學習研究社、一九八五年六月。

『魯迅年譜』李何林主編、人民文學出版社、一九八三年四月。

『蔡元培全集』中國蔡元培研究會編、浙江教育出版社、一九九七年十月。

『蔡元培年譜長編』高平叔撰著、人民教育出版社、一九九六年三月。

『北京大學日刊』影印版、人民出版社、一九八一年。

『晨報復刻版』人民出版、一九八〇年—一九八一年。

『中國世界語者與世界語運動』藍天強主編、中國世界語出版社、二〇〇二年八月。

『世界語運動在中國』侯志平編著、中國世界語出版社、一九八五年。

『エロシエンコの都市物語 1920年代 東京・上海・北京』

藤井省三、みすず書房、一九八九年四月。

「山鹿泰治と中國——『たそがれ日記』に見る日中アナキストの交流」
坂井洋史。『猫頭鷹（マオトウイン）——近代中國の思想と文學』第二
号所収。藤井省三・山口守・坂井洋史・宮尾正樹・佐藤豊、「新青
年」読書會、一九八三年十二月二十日。